

聖書:創世記 22:1-2, 9-12 讃美歌:298「ああ主は誰がため」

1. 創世記・原初史のおさらい
  - \* 天地創造 → 墮罪による樂園追放 → アブラハムの選び(レフ・レハー)
  - \* 神の選びへの応答=イスラエルの信仰
2. イサク奉獻物語 その前提
  - \* アブラハムへの約束 ①12:2-3 「祝福」 ②13:14-17 「土地」 ③15:5 「子孫の繁栄」 15:6=「信仰義認」
  - \* 75歳の旅立ち その時点でまだ子どもが授からず(11:30「サライ=不妊の女」)
  - \* そば女(女奴隷)ハガルによって子をもうける → イシュマエル(アラブ人の祖)
  - \* サラ99歳の「受胎告知」 → サラは「笑った」 → 21章イサク(「笑い」)の誕生
  - \* サラ・イサクと、もう一人の母子(ハガル・イシュマエル)の確執 → 追放 → 「もうひとつの国民」(アラブ人)
3. イサク奉獻の神命 アブラハム最大の試練
  - \* 「焼き尽くす献げもの」=“燔祭”
  - \* 神殿での礼拝 献げも(いけにえ)のがクライマックス
  - \* レビ記1章 様々な献げもの ①焼き尽くす ②穀物 ③和解 ④贖罪 ⑤賠償 → ①は「最上級」
4. 矛盾する天命
  - \* 子孫の繁栄の約束 ↔ ただ一人生まれた子孫イサクを「献げよ(殺せ)」
  - \* 命じられたアブラハムの内心は...?? 葛藤・悩み苦しみがあったのでは??
5. 実際の屠る場面
  - \* 22:7-8 の父子の会話
  - \* 刀を振り下ろそうとするアブラハム ←「もうよい。お前の信仰はよく分かった」(22:12)
  - \* 「我が子を犠牲にすることをも惜しまない」 ← それが「信仰」か?
  - \* 「この箇所が分かれば、ユダヤ人(イスラエル)が分かる」(某、元 神学部教授)
  - \* どんなに情けが深くても「人間の情」 < 神の御心を優先する、=ユダヤ人の信仰
6. イサク奉獻に関する、キリスト教サイドからの解釈
  - \* イエス・キリストの十字架=人の罪を贖うためにひとり子を惜しまずお与えになった印=神の愛
  - \* その愛の姿が形を変えて(立場を入れ替えて)語られたのが、「イサク奉獻物語」(わが子を犠牲にする信仰)...という解釈
  - \* 気持ちは分かるが聖書学的には無理がある (記された年代 礼拝ではOK、でも聖研では!?)
  - \* 神に従うためなら、わが子の命が失われることになって受け入れる → それが究極の信仰(聖書)
  - \* 私たちはどう応答するか
7. 質疑と応答

◆4月の聖研祈祷会は、4月2日(水)です。